

題材指導計画

第5学年音楽科「音楽の持ちょうを感じて」（全6時間）

【題材の目標】

- 旋律の特徴や響きの違いを感じ取りながら、日本の音楽に親しむようにする
- 音色の特徴を生かしたり、全体の響きを感じ取って表現の工夫をしたりすることができる。

時	ねらい	主な学習活動	評価規準	個のつまずきに対する主な指導・援助
1	二つの「子もり歌」を、情景を思い浮かべながら聴いたり歌ったりすることができる。	<p><b>子もり歌</b></p> <p>ふたつの「子もり歌」を聴き比べたり歌い比べたりしよう</p> <p>・二つの「子もり歌」を聴き、曲の違いに気づく。</p> <p>・グループごとに2曲を歌い比べて曲想の違いを感じ取る。</p>	<p><b>関心・意欲・態度</b></p> <p>日本の歌に関心を持ち、歌い方を工夫している。</p>	<p><b>つまずきの様相</b></p> <p>関心を持つことができない。特徴を感じ取って歌えない。</p> <p><b>評価</b></p> <p>ワークシート、グループ練習の様子から</p> <p><b>手だて</b></p> <p>身近なわらべ歌などのふしで同じような特徴を示す。優しく歌うために発音に気をつけるよう助言する。</p>
2	日本全国のいろいろな民謡を聴き、伝統音楽の特徴を感じ取ることができる。	<p><b>日本の民謡</b></p> <p>日本の民謡にはどんな特徴があるのか聴いてみよう</p> <p>・「江差追分」「八木ぶし」「谷茶前」を聴き、それぞれの特徴を感じる。</p> <p>・日ごろ親しんでいる音楽との感じの違いに気づく。</p>	<p><b>鑑賞の能力</b></p> <p>いろいろな民謡の特徴を感じ取ってきくことができる。</p>	<p><b>つまずきの様相</b></p> <p>関心を持って聴くことができない。特徴を感じ取れない。</p> <p><b>評価</b></p> <p>ワークシート</p> <p><b>手だて</b></p> <p>聴き取れなかった場合、再度聴く。</p>
3	曲全体の感じをつかみ、主旋律を演奏することができる。	<p><b>キリマンジャロ</b></p> <p>曲の持ちょうをつかみ、パートに分かれて主旋律を演奏しよう</p> <p>・CDを聴いて曲の感じをつかむ。</p> <p>・リコーダーと鍵盤ハーモニカのパートに分かれて、主旋律を交互奏する。(4つの音楽班別)</p> <p>・スタッカート、レガートの表現に気づき、表現にいかす。</p>	<p><b>表現の能力</b></p> <p>・フレーズのまとまりに気をつけて、主旋律を演奏することができる。</p> <p>・リズムやアーティキュレーションに気をつけて演奏することができる。</p>	<p><b>つまずきの様相</b></p> <p>基本的な奏法ができない。</p> <p><b>評価</b></p> <p>グループ練習の様子から。</p> <p><b>手だて</b></p> <p>正しいタンギング、息遣いを示す。</p> <p><b>つまずきの様相</b></p> <p>基本的な奏法ができず、リズムによって演奏できない。</p> <p><b>評価</b></p> <p>グループ練習の様子から</p> <p><b>手だて</b></p> <p>正しい奏法を示す。スタッカートやレガート奏法を再度示し、ゆっくりの伴奏に合わせて練習する。</p>
4	伴奏パートに合う楽器を選び、主旋律と合わせて演奏することができる。	<p>、の旋律に合う楽器を選んで、合奏をしよう</p> <p>・アコーディオンやキーボード、木琴、鉄琴などから、の旋律に合う楽器を話し合って選ぶ。</p> <p>・グループで主旋律と、を合奏する。</p>	<p><b>感受・工夫</b></p> <p>音の重なりを感じて合奏することができる。</p>	<p><b>つまずきの様相</b></p> <p>パートにふさわしい楽器を選べない。</p> <p><b>評価</b></p> <p>ワークシート</p> <p><b>手だて</b></p> <p>、それぞれの特徴を「のびる音」「細かい動き」「低めの音」などイメージしやすい言葉で表し、ふさわしい楽器に気づかせる。</p>

5	<p>リズム伴奏を工夫して音色やリズムの特徴に気をつけて打楽器を選ぶことができる。</p>	<p><b>リズム伴奏の工夫をしよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに教科書の例や、リズムパターンのカードを組み合わせ、<b>ア</b>と<b>イ</b>それぞれの曲想に合うリズム伴奏を考える。</li> <li>・まずは手拍子で、リコーダー・鍵盤ハーモニカに合わせたり、CDに合わせたりしてリズム伴奏を演奏する。</li> <li>・リズムの特徴や、他の楽器との重なりに気をつけて楽器を選ぶ。</li> </ul>	<p><b>感受・工夫</b></p> <p>曲の特徴をとらえて、フレーズに合ったリズムの工夫をし、リズムや音色に気をつけて打楽器を選ぶことができる。</p>	<p><b>つまずきの様相</b></p> <p>パターンカードなどを組み合わせるリズムを作ることができない。</p> <p><b>評価</b></p> <p>ワークシート</p> <p><b>手だて</b></p> <p>教科書の例を参考にする。<b>ア</b>と<b>イ</b>のリズムの違いは、主旋律の特徴や伴奏パートの動きの違いなどから感じ取るようにし、カードをいくつか組み合わせ、「合っている」「面白い」と思えるような組み合わせができるようにする。</p>
6 (本時)	<p>各パートの役割を生かし、全体の躍動感や<b>ア</b>と<b>イ</b>の曲想の違いを感じながら、拍の流れにのって合奏することができる。</p>	<p><b>ア</b>と<b>イ</b>の曲想の違いを感じながら、リズムにのって合奏しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A, Bチームの2つに分かれて合奏する。</li> <li>・チームごとに合奏の練習をする。</li> <li>・発表をして、お互いの演奏を聴き合う。</li> <li>・全員で合奏をする。</li> </ul>	<p><b>表現の技能</b></p> <p>旋律の特徴をいかして合奏の工夫をすることができる。</p>	<p><b>つまずきの様相</b></p> <p><b>ア</b>と<b>イ</b>のふしの違いを感じて演奏ができない。</p> <p><b>評価</b></p> <p>グループ練習の様子から</p> <p><b>手だて</b></p> <p><b>ア</b>の弾む感じと<b>イ</b>のなめらかな感じを表すために、主旋律は<b>ア</b>スタッカートで、<b>イ</b>レガートで、副次的な旋律は<b>ア</b>スタッカートで、<b>イ</b>伴奏パートとともに音を抑えて、低音は<b>ア</b>力強く、<b>イ</b>音を抑えて、リズム伴奏は<b>ア</b>は躍動的に、<b>イ</b>は楽器の音色や響きを抑えたり、楽器を減らしたりするなど表現の工夫ができることを確認する。</p>